

特別支援学校高等部の教科「職業」の指導内容・指導方法の改善

－自己理解に基づく、よりよい将来の職業生活を考えることができる生徒の育成を目指して－

大分県立南石垣支援学校 前田 いずみ

要旨

本研究は、卒業後の就労を中心とした生活を具体的にイメージできる生徒の育成を目指し、特別支援学校高等部新学習指導要領「職業」の内容を、指導の形態別や高等部3ヵ年の系統性等の視点から、指導内容表として整備し、設定した指導内容の是非について実際の授業を通して検証したものである。

設定した指導内容の検証では、卒業後の生活を具体的にイメージし、今後の自己の課題を発見するなどの期待した姿が見られ、指導内容の方向性については一定の成果を上げたと思われる。

一方、生徒によっては学習レディネスが一部備わっていない等の問題も見られ、設定した各学年の題材ごとの指導内容について、個別に指導のステップを構築していく必要がある等の課題が明らかとなった。

〈キーワード〉 知的障がい 新学習指導要領 職業 指導内容表 職業生活

I 研究の背景と目的

1 背景

本校はこれまで教科「職業」の指導内容について、職業生活科職業コースでは職業の時間を設けて指導を行ってきたが、総合コースでは作業学習を中心とした、各教科等を合わせた指導の形態で扱っていた。今年度より、職業生活科全員に職業の時間を設け指導を行っているが、指導の在り方については指導者の裁量に任されている。そのため、指導者が生徒個々の指導内容の設定や適切な指導方法の構築について苦慮しており、系統だった指導が十分に行えていない現状がある。

また、作業能力は高いが将来の職業生活のイメージがもてない、自己理解ができていない等のため、一般就労に結びつかない生徒がいるという実態がある。更に、卒業後数年で離職する卒業生が毎年いる現状である。

前述した現状を解決するため、教科「職業」の指導内容について、教科の目指す資質・能力が育成されるように、指導の形態や順序等を体系的に整備することが必要であると考えた。更に、職業に係る見方・考え方を働かせ、職業生活を中心とした卒業後の生活について、具体的にイメージするとともに、課題を解決し、よりよい生活を目指して学習活動に積極的に取り組むことができる生徒の育成が喫緊の課題である。

2 目的

本研究で目指すことは、「適切な自己理解に基づき、将来のよりよい職業生活を考えることができる生徒の育成」である。そのため、特別支援学校高等部の教科「職業」の内容を、指導の形態別や高等部3ヵ年の系統性等の視点から体系的に整備し、指導内容・指導方法を明らかにすることを目的とする。

体系的な整備を図る際、先行研究の「特別支援学校(知的障害)における教科等の系統的な指導に関する研究～『職業科』『家庭科』を中心に～」や、大分大学教育学部附属養護学校の「作業学習指導計画『教育課程編成の手順と条件』」等の系統性の担保に関する考え方を参考とする。

II 仮説

教科「職業」の指導内容を、指導の形態別や高等部3ヵ年の系統性等の視点から体系的に整備することにより、適切な自己理解に基づき、卒業後の生活を具体的に描くことができる生徒が育つであろう。

III 方法

1 新学習指導要領に示された内容の整理

(1) 教科「職業」の指導内容の整理

新学習指導要領に示された教科「職業」の内容を、本校での指導の形態別になるように、以下の手順で整理をした。

①平成 30 年度新特別支援学校高等部学習指導要領等説明会資料『特別支援学校高等部学習指導要領解説(2)』(注1)の職業に関する解説の文章を、具体的な指導内容と学習活動構想上の留意点に分けるために、「指導内容の具体的な例示」「学習活動の例」「指導上の留意点」の3つの項目で整理した。ただし、2つ以上の項目にまたがる文章や、それぞれの項目に分け難い文章があったため、各項目に重複させるなどして整理することとした。

【(資料1)指導内容一覧】

【視点】

- 「例えば～」で始まる内容は「学習活動の例」としてとらえる。
- 「指導に当たっては～」「～が大切である」「～必要である」「～が重要である」などの内容は「指導上の留意点」としてとらえる。
- その他を「指導内容の具体的な例示」としてとらえる。

②上記①の指導内容一覧を、更に本校の指導の形態別等に「教科別の指導(座学や校外学習等)」「校内実習(作業学習)」「産業現場等における実習」に整理した。

【(資料2)形態別指導内容表】

【視点】

- 座学を中心に、新たな知識として習得し、思考・判断・表現等するために、系統的な積み重ねが必要な内容(他の項目に入らない内容)は、「教科別の指導(座学や校外学習等)」で指導する内容とする。
- 「作業を通して」「実習を通して」「実際の活動を通して」などが付いた内容は、「校内実習(作業学習)」で指導する内容とする。
- 学習指導要領の「C産業現場等における実習」に示された内容は、「産業現場等における実習」で指導する内容とする。

(2) 本校における授業「職業」の指導内容の整理

本校の指導の形態として、職業の時間に指導する内容(授業「職業」の指導内容)を設定するために、以下の手順で分類・整理をした。

①上記(1)～②形態別指導内容表から、職業の授業で扱う内容として「教科別の指導(座学や校外学習等)」で取り扱う内容をピックアップし、『キャリアプランニング・マトリックス(試案)』(国立特別支援教育総合研究所, 2010)の4つの能力(人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力)を活用し、指導内容を

を体系的に分類し、整理した。

その際、人間関係形成能力と情報活用能力に関わる指導内容というように、1つの指導内容に対して複数の能力に関わり合っていることから、共通する能力ごとに分類した。しかし、他の指導内容とは分類が異なるものや、能力によっては指導内容が1つだけになるものが出てきた。そこで、分類したグループの考え方や共通する文言をもとに4つの分類項目(下記に示す)を設定し、再度分類・整理した。

【(資料3)系統的な指導に向けた分類・整理】

【項目】

- 4つの項目を将来の生活場面で設定した。
 - 「職業生活に関すること」
 - 「就職や転職に関すること」
 - 「休日や余暇に関すること」
 - 「家庭生活に関すること」

②上記(2)～①の系統的な指導に向けて分類・整理した指導内容を、授業の指導内容として設定できるように、段階的・系統的に各学年に振り分け、3ヵ年の指導内容の具体的な例示を整理した。

【(資料4)3ヵ年の指導内容表】

【視点】

- 全学年を通じて学習し理解を深めていくものとする。各学年の指導内容の設定の基本方針については下記のように設定した。
 - 1年次：「職業生活とはどんな生活なのか」を中心に、一般的な考え方を広く学ぶ
 - 2年次：現場実習等における働く経験を通して「職業生活」について、自分事として考え、学ぶ
 - 3年次：卒業後の生活を見据え、具体的に(就職先のスケジュールを加味して)考え、「豊かな生活」について学ぶ

2 検証授業を通じた仮説の検証

(1) 検証授業の概要

① 対象

大分県立南石垣支援学校
高等部2年職業生活科 職業コース

② 実施期間

令和元年10月1日(火)～11日(金)のうち5日間

③ 検証授業で扱う指導内容

- ・ Aア(ア)
多くの人々が社会の中で働きながら生活していること【人・情・将】
 - ・ Aイ(ア)㊦
勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次有給休暇などの基本的な労働条件を知ること【情・将】
- *【 】内はキャリアプランニング・マトリックス(試案)の4つの能力を示す。

④ 題材名

身近な人をモデルに職業生活について考えよう

⑤ 題材目標

労働条件(雇用形態・業務内容・労働環境)の違いがあることがわかり、将来の職業生活を中心とした卒業後の生活を具体的に考えるとともに、現在の自己の課題を見つけることができる。

⑥ 題材計画

5時間で計画し実施した。詳細については下記に示す(資料5)。

<資料5> 題材計画

	【題目】、〇めあて(4つの能力→解説との関わり)	学習指導要領との関わり
1/5 時間目	【 社会人について知ろう 】 〇多くの人が働いていることを知り、働くことの意味を理解することができる(人・情) →仕事には生計を維持するばかりでなく、働くことで自己実現を図るなどの目的があることを理解する	勤労の意義を理解する①
2/5 時間目	【 自分が就きたい仕事を考えよう 】 〇自分なりの働く意味を考えることができる(将) →仕事には生計を維持するばかりでなく、働くことで自己実現を図るなどの目的があることを理解する	勤労の意義を理解する②(自己理解)
3/5 時間目	【 いろいろな労働条件を調べよう 】 〇自分の気になる仕事の労働条件を知ることができる(情) →職場の組織、労働と報酬の関係などの基本的な労働条件などの知識を身に付ける	職業生活に必要な実践的な知識・技能を身に付ける①
4/5 時間目	【 いろいろな労働条件から職業生活について考えよう 】 〇職業生活をイメージすることができる(将) →職場の組織、労働と報酬の関係などの基本的な労働条件などの知識を身に付ける →自分の能力や適性を発揮しながら社会の一員としての役割を果たす	職業生活に必要な実践的な知識・技能を身に付ける②
5/5 時間目	【 職業生活を送る上で必要なことを考えよう 】 〇学生から社会人になるための課題を見つけることができる(将) →自分の能力や適性を発揮しながら社会の一員としての役割を果たす	勤労の意義を理解する③(自己理解)

(2) 検証内容

設定した「一題材ごとの具体的な指導内容」の是非

(3) 検証方法

生徒の学習態度や発言、発問に対する回答を分析し、検証する。分析の視点等については下記に示す。

【分析の視点と分析対象となる授業】

分析の視点A：働く意味を理解することができたか
対象の授業：1, 2時間目

〈評価規準〉「お金のため」等、自分の利益のためとする回答だけではなく、人のためや社会のためといった回答が見られた場合に理解することができたかと判断する。

分析の視点B：労働条件に違いがあることを理解することができたか
対象の授業：3, 4時間目

〈評価規準〉職種が同じでも、就職先によって雇用形態や給料などに違いがあるという回答が見られた場合に理解することができたかと判断する。

分析の視点C：職業に係る見方・考え方を働かせ、自己の課題を見つけることができたか
対象の授業：1, 5時間目

〈評価規準〉生活習慣(自立)に関することだけではなく、人との関わりに関することなどの、よりよい将来の生活を送るための記述があった場合に課題を見つけることができたかと判断する。

IV 結果

1 新学習指導要領に示された内容の整理の結果

※資料1-4は巻末 pp. 47-48 に添付

2 検証結果

【1時間目】

○主な活動

修学旅行で見た働く人をきっかけに、なぜ多くの人働きながら生活をしているのかを考える。

<資料6> 分析の視点に対する生徒の様子等(1時間目)

視点	A	B	C
発言	(対話的な活動の中で) ・警察や消防士だったら、人のためだったり、平和のためだったりする。 ・職種によっては、子どもが好きだからとか、夢だったからという人もいると思う。 ・親だったら、子どものため。 ・お金が欲しいから働く。 ・自分の生活のため。	扱っていない	

	<ul style="list-style-type: none"> 働いていたら信頼されるから、人の信頼を得るため。 		
記述	(対話的な活動の中で) <ul style="list-style-type: none"> 人の役に立つ 生きるため 家族のため 人を笑顔にするため 自分のため お金のため 自分の趣味のため 	(振り返りの中で) <ul style="list-style-type: none"> 改めて自分で働くことについて考えることができた 自分の考え以外の答えも聞けて参考になった 社会人のことをもっと知りたい 働く意味をもう少し知りたい 働く意味がよくわからなかった 	
様子	<ul style="list-style-type: none"> ペアで意見交換をする場を設けたが、発言が少ない。 一つの話から話が広がらない。 授業にまじめに取り組んでいるが集中力が続かない。 	(A)に同様	

【2時間目】

○主な活動

自分は将来、どんな仕事をしながら生活したいかをイメージし、自分にとっての働く意味を考える。

<資料7> 分析の視点に対する生徒の様子等(2時間目)

視点	A	B	C
発言	(対話的な活動の中で) <ul style="list-style-type: none"> 飲食店のメンテナンスは目立たないけど従業員やお客さんがいい気持ちになるから。気持ちよく料理を楽しんだり、働く人が気持ちよく仕事ができるようにしたい。 クロワッサンが好きだから、たくさんの子供たちがパンを食べて笑顔になってほしい。 メンテナンスは今働き手が少なく困っているから、将来働くなら加わってもいい。 人のお世話をする仕事がしたい。保育士や介護。介護は実習で体験し、自分に合っていると思った。やりがいがありそう。 接客もまた実習で体験し、やってみたいと思った。自分の性格(明るくて元気な感じ)で、みんなにおいしく楽しく食事をしてほしいという気持ちがある。 自分にとっての働く意味は、人を幸せにするため、人の未来を守るため、自分のため。 	扱っていない	扱っていない
記述	(自己の考えを記述する活動、振り返りの中で) ※一部抜粋 <ul style="list-style-type: none"> 人の役に立つ 家族のため 人を笑顔にしたい 自分の趣味のため 人を幸せにすること 自分の夢を叶える やってみたい 自分のお金のため やりがいがあると思ったから 人を心地よい気持ちにする 自分に合っていると思ったから 	扱っていない	扱っていない

様子	<ul style="list-style-type: none"> 展開から机を円形にして活動した。「どうしてその仕事を選んだの?」と生徒同士で質問をしながら、自分にとっての働く意味を考えていった。発言する友だちに対して、感心する姿や、賛同する姿があった。 「自分がこの仕事に就くとしたら、こんな働く意味がある」というように具体的に考えていた。 		
-----------	---	--	--

【3時間目】

○主な活動

求人情報誌を活用し、雇用形態や、業務内容、労働環境を中心にどんな内容が掲載されているかを知り、自分の気になる仕事の労働条件を調べる。

<資料8> 分析の視点に対する生徒の様子等(3時間目)

※T: 教員 S: 生徒

視点	A	B	C
発言		(対話的な活動の中で) <p>T: 「労働条件とは何か知っていますか」</p> <p>S: 「仕事内容、面接があるかないか、笑顔、挨拶、返事、時間」</p>	
記述	扱っていない	—	扱っていない
様子		労働条件を知るために、求人情報誌を活用した。労働条件とは何か(業務内容、労働時間、給与、休日、勤務地)を伝え、労働条件に注目しながら気になる求人をチェックした。すると、初めて求人情報誌を見る生徒が多く、どんな内容が記載されているのかに集中し、労働条件に注目することが難しかった。	

【4時間目】

○主な活動

自分の気になる仕事の労働条件を整理し、その条件をもとに職業生活をイメージする。

<資料9> 分析の視点に対する生徒の様子等(4時間目)

※T: 教員 S: 生徒

視点	A	B	C
発言		(対話的な活動の中で) <p>T: 「労働条件とは何か覚えていますか」</p> <p>S: 「大きな声で挨拶ができる人、仕事内容、勤務地に関する内容(バス停や駐車場のこと)」</p>	
記述	扱っていない	(調べ学習の中で) <p>T: 「気になる労働条件はあった?」</p> <p>S: 「資格が必要であること、18歳以上」</p>	扱っていない
様子		生徒の中で、働く上で求められる態度と労働条件が混乱していたため、労働条件とは何か(業務内容、労働時間、給与、休日、勤務地)を黒板に提示した。その後の活動の様子から、採用条件と労働条件が混在している様子だった。	

【5時間目】

○主な活動

社会人になるための課題について、今頑張っていることと、これから卒業までに頑張ることの二つの視点で考える。それぞれ頑張ることを友だちと共有し、自己の今後の課題を見つける。

<資料 10> 分析の視点に対する生徒の様子等(5時間目)

※S：生徒

視点	A	B	C
発言			(自己の今後の課題を共有する活動の中で) S:「自分じゃ気付かなかった」「大切なこと」
記述	扱っていない	扱っていない	(振り返りの中で) ・社会人になるために、足りないことがあることがわかった ・いろいろな課題があった ・友だちと話し合ったり、みんなで意見を出し合ったりして、それぞれの思いが理解できたので良い時間だった。この5時間で自分の将来の仕事のことや職業生活を考えたりして、とても貴重な時間だった (自己の今後の課題) ・遅刻しない様に起きる ・集中して授業を受ける ・聞いたことをメモする ・分からないときは聞く ・趣味を増やす ・あまり怒らない ・質問に対して正確に答える ・言葉遣い ・積極的に行動したり発言したりする ・質問内容が相手に伝わるように言う ・精神力を強くする(くじけない) ・思ったことを相手に伝えられるようになる ・自分で料理ができるように家の手伝いをする
様子			「イライラしない」という共通の課題について、意見交流する姿があった。イライラしたときの対処方法について互いの考えを伝えあい、自分にはなかった方法を知り、これからの課題としてとらえていた。

V 考察

検証授業を通して、概ね指導内容の設定の方向性はよかったと考える。分析の視点A・B・Cに基づき、検証授業の分析結果から考察を述べる。

分析の視点A：働く意味を理解することができたか

“生徒の働く意味に関する問いの回答の変容”について、実際の授業では、多くの人が働く意味を考える段階での発言は少なかった。一方、自分にとっての働く意味を考える段階では、自分が就きたい仕事とその理由について生徒同士で活発な意見交流ができていた。その中で、自分にとっての働く意味について、全員が「お金の

ため」「生活するため」といった自分のためだけではなく、「人の役に立つため」「人を笑顔にしたいから」「人の未来を守るため」などの、人のため・社会のためという内容を発言する姿が見られた。

また、自分にとっての働く意味を考える際に、これまでの自分の経験から考えることができている、そのため具体的な発言が多く見られた。

更に、授業後の感想では「社会人のことをもっと知りたい」「働く意味をもう少し知りたい」という意欲的な記述があった。このことから、職業の授業の最初の題材としては、十分な成果があったと思われる。

分析の視点B：労働条件に違いがあることを理解することができたか

“労働条件に関する問いに対して、適切な回答をすることができたか”について、実際の授業では、労働条件や採用条件、働く上で求められる態度等を、就職の際に必要なことというように、一括りにとらえていることがわかった。労働条件と採用条件は、それぞれ何を示しているのかを掲示することで、理解をしている様子はいかがであった。

しかし調べ学習の中では、初めて目にする職種や採用条件に関心が集中し、労働条件に注目することが難しかったと思われる。そのため、労働条件の違いに気付くことができなかったと考える。

分析の視点C：職業に係る見方・考え方を働かせ、自己の課題を見つけることができたか

“職業に関する自己の課題についての記述内容の比較”について、実際の授業では、はじめは「もっと知りたい」という意欲的な記述は見られたが、自己の課題を見つけるまでには至らなかった。順序立てて授業を進めることで、自己の課題を見つけ記述することができる姿へと変容した。その記述内容を細かく見ると、「遅刻しない様に起きる」「趣味を増やす」「質問内容が相手に伝わるように言う」等、職業生活を中心とした生活習慣(自立)に関する課題や、人との関わりに関する課題が書かれていることから、職業に係る見方・考え方を働かせ、課題を見つけることができたと考える。

更に、自分の考えを他者と交流することで「自分じゃ気付かなかった」「大切なこと」という発言があり、新たな気づきを得ている姿が見られた。

これらの分析より、分析の視点Aについては、自分にとっての働く意味を理解し、具体的に考えることがで

きたと言える。また分析の視点Cより、将来の職業生活について、自分事として考えることができるようになったことで、働くために必要なことだけでなく、働きながら生活するために必要なことについて、自己の課題を見つけ、適切な方向性で設定することができたと考える。

一方、分析の視点Bより、職業の名称や仕事内容に関する知識が不十分だったため、労働条件の違いに着目するまでに至らなかったと考える。

このことから、検証授業を通して、概ね指導内容の設定の方向性はよかったと考えるが、課題として、労働条件を学ぶ前段階の知識が不足しているなど、職業に関する基礎知識の習得を行う必要があったことがわかった。

VI 研究のまとめ

1 成果

(1) 指導内容について

特別支援学校高等部の新学習指導要領に示された職業の内容について、実際に指導する際の指導の形態別に整備し、キャリア発達の視点をもとに系統的に配列した指導内容表を作成した。整備・作成する中で、手順や条件を明らかにすることができた。

また、指導内容表の具体的な指導内容で行った検証授業では、生徒が積極的に学習に取り組む姿が見られ、一定の成果を上げることができた。このことから、概ね指導内容の整理の方向性はよかったと考える。

(2) 指導方法について

教科「職業」の指導内容について、本校の指導の形態別に、指導する内容を明らかにした。その際、座学を中心とした教科別の指導や、実際の活動を通して行われる作業学習の指導等、それぞれの特徴や特性を生かして分類・整理した。

検証授業の中では、生徒から「新しい発見があった」「自分の将来の仕事のことや、職業生活を考えたりして貴重な時間だった」「社会人になるために足りないことがあることがわかった」などの発言がある等、適切な自己理解に基づき、卒業後の生活を具体的に描く姿が見られたことから、指導方法についても一定の成果が見られたと考える。

また、生徒の積極的な発言や一生懸命に考える姿等から、知的障がいをもつ生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けての方向性が見えてきた。

2 課題

検証授業を通して、職種が限定されている、経験したことのある職種しか出てこない、職業に関する基礎知識が乏しい等、生徒のレディネスが一部備わっていないことが明らかになった。

前述のような生徒の実態を踏まえ、今後の課題として、小学部での生活科「役割」や「手伝い・仕事」、中学部での社会科「産業と生活」や、職業・家庭「職業分野」の指導を充実するなど、学びのつながりを重視し、小・中・高全ての学部の教育課程の見直しが必要と考える。

また、高等部から入学してくる生徒に対しては、教科「職業」に関する基礎知識を指導内容として取り扱う時間を設定する必要がある。

本研究で行った検証は、指導内容の一部を切り取って行ったものである。そのため、所属校にて3年間かけて指導内容の是非を見ていくことが一番の課題と言える。

今後の展望として、授業実践を通してPDCAサイクルによるカリキュラムの改善を行うことや、卒業後の実態調査等を行い、指導内容の見直しを行うなどの取組が考えられる。また、県内の特別支援学校でも活用できるよう情報を公開し、各校におけるよりよい「職業」の授業実践の一助となれば幸いと考える。

＜参考・引用文献＞

- ・大分大学教育学部附属養護学校「作業学習指導計画『教育課程編成の手順と条件』」平成6年3月
- ・国立特別支援教育総合研究所「知的障害のある児童生徒の『キャリアプランニング・マトリックス(試案)』」2010
- ・全国特別支援学校知的障害教育校長会編著「特別支援教育のためのキャリア教育の手引き」ジアース教育新社 p. 51, p. 78 2010
- ・岡部公子・栗田翔子・長谷川恵子(静岡県立浜松特別支援学校教諭)「特別支援教育研究論文集-平成25年度特別支援教育研究助成事業-特別支援学校(知的障害)における教科等の系統的な指導に関する研究～『職業科』『家庭科』を中心に～」, 研究協力:国立特別支援教育総合研究所 公益財団法人みずほ教育福祉財団 平成26年3月
- ・文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領 pp. 233-238 (平成31年2月告示)

(注1)平成30年度新特別支援学校高等部学習指導要領等説明会資料文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領解説(2)」平成31年2月

<資料1> 指導内容一覧 ※一部抜粋

		指導内容の具体的な例示	学習活動の例	指導上の留意点
A 職業生活	A 勤労の意義	(ア) 勤労の意義を理解すること。	職場見学や産業現場等における実習等を通して	進んで働く経験を通してこれらを実感できるようにすることが大切である。
		(イ) 意欲や見通しを持って取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。	作業工程における(実際の作業において)協力して作業する場面等において	作業工程における担当、仕事内容、手順などにおける自分の役割を確実にすること、作業のペースを合わせるなど、適切な関わり方などについて考えること。

<資料2> 形態別指導内容表 ※一部抜粋

※(ア) 知識・技能 (イ) 思考力・判断力・表現力等 (ウ) 学びに向かう力・人間性等

	指導内容の具体的な例示(1段階)	学習活動構想上の留意点(単元・題材計画構成の要素)
職業生活(教科別の指導)	<p>Aア(ア) 仕事には、生計を維持すること働くことで自己実現を図るなどの目的があることや、働く場に所属し、仕事において自分の能力や適性を発揮しながら、社会の一員としての役割を果たすために、自らの仕事に励む大切さなどを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が社会の中で働きながら生活していること <p>Aイ(ア) 職業に関することは、地域にある農・林・水産業、工業、商業などに関わる多様な職業や、それぞれが果たす役割や仕事内容などの知識や、職場の組織、労働と報酬の関係などの基本的な労働条件などの知識を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場における生産活動等の社会的意義を知ること ・職場の役割やその役割、部、課及び係などの機能分担について知ること ・勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知ること ・健康保険、雇用保険、年金などの制度のあらましを知ること ・職種によっては資格や検定等が必要であることを知ること 	<p>学習活動構想上の留意点(単元・題材計画構成の要素)</p>
校内実習・校内作業(作業学習)で	<p>Aア(ア) 仕事には、生計を維持すること働くことで自己実現を図るなどの目的があることや、働く場に所属し、仕事において自分の能力や適性を発揮しながら、社会の一員としての役割を果たすために、自らの仕事に励む大切さなどを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々は働くことを誇りとしていること ・働くことを通して充実感や生きがいをもてるようになること →人々が働くことを尊重していることを理解すること <p>Aア(イ) 意欲や見通しをもって取り組んだ結果や、分担した役割を果たすことで得られた成果などを振り返り、自分の役割を果たすことや協力の仕方について考え、表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業工程における担当、仕事内容、手順などにおける自分の役割を確実にすること ・最後までやり遂げる意義や、協力することで得られる効率性や仲間との連帯感などを振り返り、考えること ・互いに声を掛け合いながら作業すること ・作業のペースを合わせること ・必要に応じて報告や質問をすること ・適切な関わり方などについて考えること 	<p>○進んで働く経験(職場見学や産業現場等における実習等)を通してこれらを実感できるようにすること。</p> <p>○自らの体験を通して実感できるよう、振り返りを行うなどの工夫をすること。</p> <p>○協力して作業する場面等において、互いに声を掛け合いながら作業することや、作業のペースを合わせること、必要に応じて報告や質問をすることなど、適切な関わり方などについて考え、これらが職場の一員として円滑に作業を進める上で重要であることに気付くよう指導すること。</p>
産業現場等における	<p>Aイ(イ) 職場で働くことを中心とした生活をする上で求められる自らの健康を守る方法や休日の有効な生かし方、職場での休憩時間などについて考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた休憩時間を有効活用すること <p>Cア 産業現場等における実習を通して、就業や卒業後の職業生活を健やかに過ごすために求められる事柄について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先で生産している物が、社会でどのように利用されているのかを理解すること ・製品の良否が分かること ・不良品を出さないように注意して仕事をする ・実習先のいろいろなきまりを守ること ・仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやり遂げること ・状況に応じて自ら職場の人と協力すること ・実習中の健康、安全及び衛生に注意して生活すること ・適切に余暇を過ごすこと ・分からないことが生じた場合、確実に実習先の上司などに質問したり、指示を仰いだりすること ・必要に応じて感謝の気持ちを伝えたり、謝罪したりしながら作業を進めること ・挨拶や言葉遣いを身に付けること 	<p>○将来の職業生活を見据えて、産業現場等における実習においても適切な休憩時間の過ごし方を体験することなどが考えられる。</p> <p>○職場において適切にコミュニケーションが取れることの重要性を踏まえ、校内の作業や実習等を通して身に付けた挨拶や言葉遣いなどを産業現場等における実習においても発揮できるよう指導すること。(実際に職場で働く活動に取り組むことを通して)</p>

<資料3> 系統的な指導に向けた分類・整理

	指導内容の具体的な例示
<p>「職業生活に関すること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業生活を送る上で、必要な知識に関すること ・社会の仕組みについて 	<p>仕事には、生計を維持すること働くことで自己実現を図るなどの目的があることや、働く場^①に所属し、仕事において自分の能力や適性を発揮しながら、社会の一員としての役割を果たすために、自らの仕事に励む大切さなどを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々が社会の中で働きながら生活していること（人・情・将） ・職場における生産活動等の社会的な意義を知ること（情） ・職場の役割やその役割、部、課及び係などの機能分担について知ること（人・情） ・職種によっては資格や検定等が必要であることを知ること（情・意） <p>金銭に関わること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知ること（情・将） ・生活の場や生活費（人・情・将） ・健康保険、雇用保険、年金などの制度のあらましを知ること（情）
<p>「就職や転職に関すること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに受けることができる支援について 	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職に向けた相談や準備・訓練（人・情） ・就職活動や雇用前支援（人・情） ・雇用定着支援（人・情） ・離職・転職時の支援等に関わる利用方法（人・情） ・生活に対する介助（人・情）
<p>「休日や余暇に関すること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活やニーズ合わせて受けることができるサービスについて 	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な歯科検診や健康診断等の受け方を知ること（情・将） ・公共施設やサービスの利用方法を知ること（情・将） ・地域のサークル活動や福祉サービスの利用などの休日の適切な過ごし方を知ること（情・将） ・福利厚生施設などの利用方法を知ること（情・将） ・余暇活動を含めた日中活動への支援に関わる利用方法（情・将）
<p>「家庭生活に関すること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立に関すること 	<p>職場で働くことを中心とした生活をする上で求められる自らの健康を守る方法や休日の有効な生かし方、職場での休憩時間などについて考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌日の体調を考慮した睡眠時間を確保すること（人・将） ・食事の時間の取り方を考えること（人・将）→日常生活における健康管理の方法を知ること ・職場でのつきあい方を知ること（人・将）

<資料4> 3カ年の指導内容表

	1年	2年	3年
「 職業生活に関すること 」	<p>仕事には、生計を維持すること働くことで自己実現を図るなどの目的があることや、働く場^①に所属し、仕事において自分の能力や適性を発揮しながら、社会の一員としての役割を果たすために、自らの仕事に励む大切さなどを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々が社会の中で働きながら生活していること ・職場における生産活動等の社会的な意義を知ること ・職場の役割やその役割、部、課及び係などの機能分担について知ること ・職種によっては資格や検定等が必要であることを知ること <p>金銭に関わること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知ること（下線部を扱う） 	<p>仕事には、生計を維持すること働くことで自己実現を図るなどの目的があることや、働く場^①に所属し、仕事において自分の能力や適性を発揮しながら、社会の一員としての役割を果たすために、自らの仕事に励む大切さなどを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の役割やその役割、部、課及び係などの機能分担について知ること <p>金銭に関わること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知ること ・生活の場や生活費（下線部を扱う） 	<p>仕事には、生計を維持すること働くことで自己実現を図るなどの目的があることや、働く場^①に所属し、仕事において自分の能力や適性を発揮しながら、社会の一員としての役割を果たすために、自らの仕事に励む大切さなどを理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（就職先の）職場における生産活動等の社会的な意義を知ること ・（就職先の）職場の役割やその役割、部、課及び係などの機能分担について知ること <p>金銭に関わること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（就職先の）勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知ること ・（将来の）生活の場や生活費 ・健康保険、雇用保険、年金などの制度のあらましを知ること
「 就職や転職に関すること 」	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用定着支援 	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職に向けた相談や準備・訓練 ・就職活動や雇用前支援 ・生活に対する介助 	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離職・転職時の支援等に関わる利用方法
「 休日や余暇に関すること 」	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な歯科検診や健康診断等の受け方を知ること ・地域のサークル活動や福祉サービスの利用などの休日の適切な過ごし方を知ること 	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設やサービスの利用方法を知ること ・余暇活動を含めた日中活動への支援に関わる利用方法 	<p>職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法（雇用に関する各種援助や障害福祉サービス等の内容と利用方法）を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福利厚生施設などの利用方法を知ること
「 家庭生活に関すること 」	<p>職場で働くことを中心とした生活をする上で求められる自らの健康を守る方法や休日の有効な生かし方、職場での休憩時間などについて考えること。</p> <p>（職業生活を送る上で必要な）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌日の体調を考慮した睡眠時間を確保することなどの日常生活における健康管理の方法を知ること ・食事の時間の取り方を考えることなどの日常生活における健康管理の方法を知ること ・職場でのつきあい方を知ること 	<p>職場で働くことを中心とした生活をする上で求められる自らの健康を守る方法や休日の有効な生かし方、職場での休憩時間などについて考えること。</p> <p>（現場実習などの働く体験をする中で必要な）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌日の体調を考慮した睡眠時間を確保することなどの日常生活における健康管理の方法を知ること ・食事の時間の取り方を考えることなどの日常生活における健康管理の方法を知ること ・職場でのつきあい方を知ること 	<p>職場で働くことを中心とした生活をする上で求められる自らの健康を守る方法や休日の有効な生かし方、職場での休憩時間などについて考えること。</p> <p>（将来の生活を具体的に考え必要な）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌日の体調を考慮した睡眠時間を確保することなどの日常生活における健康管理の方法を知ること ・食事の時間の取り方を考えることなどの日常生活における健康管理の方法を知ること ・職場でのつきあい方を知ること

★1年次は、「職業生活とはどんな生活なのか」を中心に一般的な考え方を広く学ぶ

★2年次は、現場実習等における働く経験を通して「職業生活」について、自分事として考え、学ぶ

★3年次は、卒業後の生活を見据え、具体的に（就職先のスケジュールを加味して）考え、「豊かな生活」について学ぶ

